



「あにわにわ」とは、ニュージーランドのマオリ語で虹を意味しています。

2009.1.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1
電話：03-5786-3250 FAX:03-5786-3256
E-mail: info@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509
電話：03-6657-8539 FAX:03-3499-8539
E-mail: station@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

新年号によせて

法人代表理事(恵泉女学園大学大学院教授) 大日向雅美

皆様、明けましておめでとうございませう。新年をいかがお迎えでしょうか？

昨年、あい・ぽーとは嬉しいことが一杯ありました。無事に五周年を迎え、につけい子育て支援大賞と内閣総理大臣賞をいただくこともできました。ひとえに皆様のお力添えの賜物と心から感謝申し上げます。

さて昨年の十一月末には、地域の子育て支援拠点の充実や誰もが利用できる一時預かりの充実を盛り込んだ児童福祉法の一部改正が国会で成立いたしました。子育て支援は箱モノをつくる時代から、親子を支える「人」の養成の時代へと着実に推移し、皆様の活躍に大きな期待が寄せられています。港区・千代田区・浦安市との協働で進めている子育て・家族支援者養成事業が益々発展しているよう、スタッフ一同心を合わせて力を尽くしてまいります。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

法人代表理事 新澤誠治

子育て支援とは希望を語ることを思っています

子育て支援の場に立つと、「こは赤ちゃんのいのちが輝き、子どもが育ちゆく温床だと感じ、一日一日、成長する姿を見て居ると、乳幼児が未来に向かって手を広げて成長していくエネルギーの塊だと感じます。

「子育て・家族支援者養成講座」に参加し、そこで学ぶ人たちに接していると、女性のパワー、いのちを生みだし育ててきた力を感じ、男性中心の社会から地域社会の中で人間らしい社会をつくりだす新しい力の台頭を感じます。子育て支援はこの子ども達の育ちを支え、親の子育てを支える未来を志向する仕事だと思えます。ですから私たちは未来の希望に関わる仕事に携わっているとも言えます。「不景気だ」「病んだ社会だ」と悲観してはいられません。私たちは未来をみつめ、私は希望を語りたいと思います。

あい・ぽーと理事(白梅学園大学学長) 汐見裕幸

みなさま、寒中お見舞い申し上げます。今年もよろしく願っています。

毎年賀状などに新年のあいさつを書きますが、この十年の賀状を振り返ってみると、子育てをしている家族を社会が応援するということ、少しづつ少しずつ、当たり前のことになってきているなど強く感じます。以前は「さういふこと

大事だと説明をしなければならなかったのです。あるいは弁明です。でも、今、子育て・家族支援の活動をしているといえ、それだけで多くの人が「大事なことをされていますね」と心から思ってくれるようになってきています。この変化は重要です。私たちは歴史を動かしてきています。今年も、この流れをもっと大きなものにするために、みなさん、がんばりましょう。私たちに、歴史が味方としてついてきます。

港区立子ども支援部長 杉本隆

「あい・ぽーと」は昨年五周年を迎えました。この間の大日向施設長をはじめ関係者の皆様のご努力で港区の子どもたちや子育て家庭にとって無くてはならない大切な施設になりました。私も昨年「丸の内キッズフエスタ」や「ふれあいフエスタ」に参加し、子どもたち、パパ、ママの笑顔にふれ楽しいひとときを過ごさせていただきました。

「あい・ぽーとステーション」は、ひろばや一時保育のみならず「子育て・家族支援者の養成」や「派遣型一時保育」など、行政ではなかなか行き届かないきめ細やかな地域と連携した子育て支援事業を展開し、区の子育て支援施策と車の両輪のような協働関係が築かれています。こうした活動に対して、昨年、子育てと子育て家族を支援する活動に大きな功績があった者に与えられる「子どもと家族を応援する日本」功労者表彰で内閣総理大臣表彰を受賞されました。おめでとうございませう。昨年「あい・ぽーと」と区との協働事業が引き続き十年間継続されることが決定しました。大日向施設長をはじめ関係者の皆様のますますのご活躍、今後も地域の子どもたちや子育て家庭に対する支援、魅力ある子育て支援事業の展開を期待しています。

浦安市子ども部部長 大塚久美子

浦安市内の約七十五パーセントが集合住宅あり、核家族が大半を占めるなかで、子育てのさまざまな悩みを一人で抱える若いお母さんたちには市民の力が絶対必要になると考えます。

二〇〇六年に浦安市は、市民、NPO法人あい・ぽーとステーションとの三者協働で子育て・家族支援者養成講座をスタートしました。講座が始まってしばらくのこと、受講生の皆さ

んに毎回課せられるレポートを拝見したときの感動は今も忘れることができません。背景の異なる一人ひとりが綴ったさまざまな経験、感想、思い。目を離すことができなくなるほど子育ての切ない心情が吐露されているものもあり、回を追うごとに意識の高まりをみせるレポートもありました。思いのこもった質の高い講義を受けてこそその結果ではないかと実感すると同時に、受講者一人ひとりが子育て支援のかけがえのない力となっていく、そう確信しました。

それから二年有余、三級認定者、二級認定者の方々にはさまざまな子育ての現場で活躍していただいています。昨年は二級認定者のなかから全国初の子育てケアマネジャーが誕生しました。こども部創設三年目を迎える本年、あい・ぽーと、市民、行政が協働のスクラムをさらに強く組んで、安心して子育てのできるまちづくりに邁進していきたくと思います。

千代田区子ども教育部長 島崎友四郎

あけましておめでとうございます。支援者の皆様には、日ごろより様々な場で子育て・家族支援事業にご協力くださり誠にありがとうございます。

地方行政に携わるものとして常に念頭に置いているのは、地域社会の実態や人々の意識の変化を着実につかみとり、そのなかから公的な支援が必要な事象を選び出し、効果性・効率性・公平性等を勘案しながら具体的な施策に反映させていくことです。次代を担う子どもたちへの支援を考える際には、その基本に子どもたち自身の権利や未来を据えなければならぬと思っています。

地域社会の絆が薄れ家族構成も小規模化する中で、孤立した家庭での子育てにより児童虐待をはじめとする様々な問題が発生しています。それに抗して、明日の社会を担う子どもたちの育成を、家庭・地域・企業・NPO・行政などが協力し社会全体で支えて行こうという試みがなされつつあります。子育て・家族支援者養成事業は、そうした連携協力事業の貴重な一里塚となるものです。

支援者の皆様、NPO法人あい・ぽーとステーションの皆様には、引き続きお力添えを切にお願い申し上げます。

2008年度全国自治体職員研修

自治体職員研修第2回 in アルカディア 2008.12.5

第二回目の研修は、十二月五日、千代田区のアルカディア市ヶ谷(千代田区九段、私学会館)にて行われました。『地域の子育て支援者養成の課題と今後の展開に向けて』という研修テーマの下、各自治体の子育て支援行政担当者に加え、乳幼児教育・保育関係の専門職、NPO関係者など合計八十名の方々がご参加いただきました。

講師は、第一回目の大日向雅美代表理事、汐見稔幸理事、岡健理事、西川正氏(ハズオン埼玉副代表理事)、福川須美氏(駒沢女子短期大学教授)、高橋ゆう子氏(大妻女子大学准教授)が加わった六名が勤められました。また、厚労省の朝川知昭室長には第一回に引き続き基調講演を頂戴いたしました。

研修は午前のフォーラム「地域の人材養成の現状と課題」と午後の分科会の二部構成で行われました。開会に先立ち、法人から新澤誠治代表理事と井上小太郎氏(住友生命保険相互会社調査広報部長)の挨拶に続いて、大日向代表から研修の目的について説明がありました。

朝川室長から少子化対策の重点戦略、児童福祉法の改正など国の施策の動向について基調講演を頂戴した後、汐見理事の司会で「行なわれたフォーラムでは、地域の人材養成の四つの課題として、それぞれ「子育て・家族支援者の養成(大日向代表理事)」、「家庭の現状と課題(岡理事)」、「特別支援の現状と課題(高橋准教授)」の講演がありました。

午後は、受講生の方々が各々約二十名に分かれ、四つの分科会にて担当の講師と討議を行いました。特に分科会A「子育て・家族支援者の養成の実践と課題」には、あい・ぽーとステーションと協働で支援者養成講座や地域の子育て支援活動の運営を行っている三つの自治体から、川上真二氏(千代田区立子ども家庭支援センター所長)、新治博氏(港区田区児童家庭支援センター子育て支援係長)、高梨誠二氏(浦安市子ども部)とも家庭課子育て係副主査)に加わっていただきました。分科会C「学童保育」では西川正氏にワークをお手伝いいただきました。

四つの分科会での討議を受けた全体会で、各担当の先生方から討議内容の報告と質疑応答がありました。行政と市民・NPO企業との協働に息長く取り込んでいくことが子育て支援の一番の要諦である。行政の方々には、地域の様々なリソースを信頼して育てていただきたい。との大日向代表理事の熱い思いをこめたメッセージで閉会となりました。

自治体職員研修 in あい・ぽーと 2008.10.30-31

住友生命創業一〇〇周年記念事業「未来を築く子育てプロジェクト」助成事業、NPO法人あい・ぽーとステーション主催「厚生労働省後援「全国自治体職員向け講座(第二期)」が、「前期行動計画の点検評価及び後期行動計画策定に向けた知識の習得・課題の整理」と題して、昨年に引き続き開催されました。

国は二〇〇七年十二月「子どもと家族を応援する日本重点戦略」をとりまとめ、「働き方の改革」と「家庭における子育てを包括的に支援する仕組み(社会的基盤の構築)」を主要な対策として位置づけ、少子化対策「子育て支援が大きく方針を転換しました。重点戦略の中で特に地方自治体との関係で注目される点は、家庭における子育てを支える保育や地域の育児支援の充実です。今年度から来年度にかけて、前期行動計画の見直しと後期行動計画の策定が求められ、各自治体はいかに前期の行動計画を適切に点検評価し、重点戦略が重視している二つの施策を盛り込むべきかが、問われています。

十月三十日・三十一日に行われた第一回の研修には、厚生労働省の朝川知昭氏(雇用均等・児童家庭総務局総務課少子化対策企画室室長)に講演を賜り、講師に、大日向雅美(あい・ぽーとステーション代表理事)、東京女子大学大学院教授、汐見稔幸(同理事)、白梅学園大学学長)、岡健(同理事)、大妻女子大学准教授)、西川正氏(NPO法人市民活動情報センター)、ハズオン埼玉副代表理事)、矢島洋子氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング経済・社会政策部主任研究員)、都築真哉氏(高浜市役所子ども未来部)とも育成グループ)を迎え、全国の都道府県市区町村から子育て支援行政担当者三十六名が参加しました。

開講に際して、澤春生氏(住友生命相互保険会社調査部広報部上席部長代理)から「挨拶をいただいた後、研修に入りました。まず一日目は、朝川知昭室長から、後期行動計画について政府の立場から解説があり、続いて、子育て支援における人材養成の重要性についての鼎談(汐見稔幸・岡健・大日向雅美)、保育・幼児教育施設立案の視点(汐見稔幸)、二日目はワーク・ライフ・バランスに関する立案の視点・ニーズ推計と利用者の視点に立つ評価指標の考え方、矢島洋子氏の講義の後、実践報告(高浜市 都築真哉氏)、行動計画策定に向けてのグループワーク(西川正氏、矢島洋子氏)などが行われました。参加者の皆さんは各自自治体抱えている課題を共有しつつ、それぞれの特性・独自性を活かした行動計画策定を目指して、二日間の研修が終了いたしました。



全国自治体職員研修「分科会A」 「地域の子育て・家族支援者養成 の実践と課題」に参加して

港区立子ども家庭支援センター所長 川上真二
他の自治体にも先駆けて、地域の人材養成とその活用を図っている港区は、全国の自治体のモデルケースとならなければいけない状況であり、今回、自治体職員のみならずの前で話すことについては、緊張を覚えながらの参加だった。

港区では、子育てひろば「あい・ぽーと」が、ひろばや一時保育事業が先行して実績を上げ、区民からの信頼を得た段階を経た後に、人材養成に着手した点で、区民からの参画を得やすかったと思われる。そして、養成講座終了後も、区民をバックアップする視点として子育てひろば「あい・ぽーと」があることは、子育て支援の活動をしていくうえでの安心につながる。その意味でも、きめ細かなサポートのできるNPOと区が連携することがなければ、区民参加型の派遣型一時保育の実施は不可能だったと言える。

自治体の実情は個々に違うため、港区でできたことが、他の自治体に通用するかどうかはわからないが、参考になつていれば幸いです。

千代田区立児童家庭支援センター 子育て支援係長 新治博

分科会Aに参加し感じたことは、自治体やNPO等参加者のみなさんが、地域における人材養成の必要性・重要性を痛感しつつも、そのことを組織の中でどう伝え、理解してもらうかについて悩んでいるところでした。

市区町村レベルで、限られた財源や人員の中で地域の様々な課題に多面的・総合的に施策を実施するには、どうしても優先順位をつけざるを得ません。この意味でも、人材養成は、目に見える即効的な成果を期待することが難しく、予算や企画担当のスタッフを説得する際の「最初のハードル」になっているのではないかと感じました。

地域の子育て・家族支援を一過性のものに終わらせないためには、長期的・継続的視点にたった施策展開が求められます。参加者皆さんが、この研修参加を契機に「信念と情熱」で困難なハードルをクリアし、真に実のある次世代育成支援を各地域で実現されることを心から願った次第です。



分科会 A の様子

二〇〇八年度全国自治体職員研修

住友生命保険相互会社 調査広報部長 古河久人

このほど、NPO法人あい・ぽーとステーションが創立五周年をお迎えのこと衷心よりお喜び申し上げます。また、日頃から全国の子育て団体や行政の子育てを担当されている方々への情報発信をあい・ぽーとステーションが大日向先生を中心になされていることに対し、心から敬意を表したいと存じます。

さて、ご案内のとおり、出生率の低下による子どもの減少や、子どもの心身の健全な育成が、社会的な問題となっており、少子化対策「子育て支援」について、官・民ともに様々な方策を打ち出していくことが必要になってまいりました。国は、「子どもと家庭を応援する日本「重点戦略」をとりまとめ、「ワーク・ライフ・バランスの実現」と「包括的な次世代育成支援の枠組みの構築」をその主要な取り組みと位置づけました。また、企業は、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、出産・育児関連諸制度の充実を図っているところでございます。

住友生命では昨年の創業一〇〇周年を機に、厚生労働省からの後援をいただき、少子化対策「子育て活動支援事業」として「未来を築く子育てプロジェクト」を開始しました。これは、夢のある未来づくりに向け、「子育てのすばらしさを広く社会にお伝えし、子育てしやすい環境づくりを支援すること」を目的とした様々な活動に取り組んでおります。その一環として、昨年に引き続き、NPO法人あい・ぽーとステーションが実施される「全国自治体職員向け講座」をお手伝いさせていただいております。

この研修が参加された方々にとって有意義なものとなり、各自治体の特性・独自性を活かしつつ、安心して産み育てるまちづくりへの一翼を担うこととなれば、お手伝いさせてもらっている弊社としても幸いです。

末筆ながら、NPO法人あい・ぽーとステーションのますますの「隆盛」とご参加された方々の活躍を祈念申し上げます。

受講された皆様からのお声

立川市役所子ども家庭部 子育て推進課 横塚智子さん
行政圏を超えて、市町村までの職員が一堂に会して「次世代育成」について考えることが出来たことに感謝しています。また、こうした機会を、企業とNPOの協働により実施されたことが素晴らしいですね。

私は、この四月から子育て推進課に異動になり「次世代育成」の計画作成を担当していますが、担当者が学習して、計画作成のビジョンを持つていくことが大事だと実感してきました。今回の研修では、そのビジョンとなる子育ての哲学をみられたのを学ばた事、厚生労働省の担当者から講義頂き、直接質疑応答の時間を得られた事、そして多くの参加者から計画策定へのヒントとなる事例を頂けた事が大きな収穫です。持ち帰って、今後に生かしていきたいと思っております。

浦安市子ども部子ども家庭課子育て係副主査 高梨誠二

今回のように全国の子育て支援行政担当者が集う研修会に参加させていただいたのは初めてでした。浦安市で開催している子育て・家族支援者養成講座でお世話になっている先生方の話を受講者として新鮮な気持ちで伺うと、全くにおいて首を縦に振るばかりで、改めて子育て支援には地域の方々の力と、その人材養成が必要だということを再認識させられました。幸いに浦安市では平成十八年度から養成講座を開催しています。今では三級認定者が一十二名、うち二級認定者が四十一名誕生し、それぞれ地域の「子育て支援の核」として「尽力をいただいております。

また、午後の分科会では事例発表としてこの講座から誕生した浦安独自の「子育てケアマネジャー」について報告させていただきました。伝えられたか多少の不安も残っておりますが、港区、千代田区の事例と同様に参考になるものであれば幸いです。私自身も今後の参考となるものが多々ありました。ありがとうございました。



【内閣総理大臣賞受賞報告】

去る十一月十三日に第一回「子どもと家族を応援する日本」功労者表彰式が、港区の日本学術会議講堂で行われました。著名な活動をされている企業、NPOを始めとした民間団体や個人の方が一堂に会して、厳肅な雰囲気の中での表彰となりました。NPO法人あい・ぽーとステーションは、「子育てと子育てを担う家族を支援する活動において著名な功績のあった者」として内閣総理大臣賞を受賞し、施設長である大日向代表理事が表彰されました。

あい・ぽーとの活動の功績としては、集いのひろば事業と理由を問わない一時保育事業の他に、子育て経験を持つ住民等の力を地域での子育て力の向上に役立てるため、「子育て・家族支援者養成講座」による独自の資格認定を構築し、子育て支援を担う人材育成に取り組んでいる点を挙げて頂きました。

これも、ひとえにこれまで「あい・ぽーと」を支えて下さった多くの皆さま、とりわけ「子育て家族支援者」として認定を受けて、地域で支援者として活動して下さっている皆様のお力添えの賜物と、スタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、施設長と共にスタッフみんなで力を合わせてがんばっていききたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



小淵少子化対策担当大臣から表彰される大日向施設長

【バックアップ研修報告】

今年度開催されたバックアップ研修は、以下の通りです。

〈港区〉

- 四月 「手作り布絵本講習会」
勤労者のボランティアグループの講師
- 五月 「活動報告と課題の検討」 大日向雅美
- 六月 「身近にある物を使った手作りおもちゃの作り方」
港区「うなん保育園保育士・岩井はるみ氏
- 七月 「一時保育のリスクマネージメント」
株式会社イー・ケア・サポート代表取締役 榎本三千雄氏
- 八月 「活動報告と課題の検討」 大日向雅美
- 九月 「手遊び：ふれあい遊び：うた遊び」
創作遊び作家・大島靖史氏
- 十月 「気になる子どもへの対応について」
小西行朗
- 十一月 「事例報告」 大日向雅美
- 十二月 「わらべうた」
音楽教室「とんとんやかた」主宰 近藤信子氏

〈今後の予定〉

- 一月十九日「活動状況報告」 大日向雅美
- 二月十二日「育児困難家庭への支援の事例・今後求められる支援活動」
港区立子ども家庭支援センター主査 奥村直人氏
- 三月二十四日「活動状況報告」 大日向雅美

〈浦安市〉

- 四月 「活動状況報告」 新澤誠治
- 五月 「活動状況報告」 大日向雅美
- 「古武術で子育て」
介護福祉士・介護支援専門員 岡田慎一郎氏

六月 「障害のある子どもとつきあう」
小西行朗

七月 「活動状況報告」 大日向雅美

八月 「活動状況報告」 新澤誠治

九月 「活動状況報告」 大日向雅美

十月 「歌・手遊び」
創作遊び作家・大島靖史氏

十一月 「活動状況報告」 大日向雅美

十二月 「活動状況報告」 日本赤十字社 大日向雅美

〈今後の予定〉

- 二月九日「歌・手遊び」
創作遊び作家・大島靖史氏
- 二月二十三日 「活動状況報告」 大日向雅美
- 三月十一日 「活動状況報告」 大日向雅美

〈千代田区〉

四月 「活動状況報告」 大日向雅美

五月 「障害のある子どもとつきあう」
小西行朗

六月 「活動状況報告」 大日向雅美

七月 「授乳とオムツ交換」
千代田区児童・家庭支援センター保健師 磯田康江氏

八月 「活動状況報告」 大日向雅美

九月 「歌・手遊び」
創作遊び作家・大島靖史氏

十月 「食の安全」
農と食の環境フォーラム代表 牧下圭貴氏

〈今後の予定〉

- 一月二十日「活動状況報告」 大日向雅美
- 二月十七日「特別支援について」
大妻女子大学准教授・高橋ゆう子氏
- 三月六日 「活動状況報告」 大日向雅美

【港区養成講座(三級)開講】

「子育て・家族支援者養成講座(三級)Ⅶ期」が開講されます。全講座を修了し、支援者として認定を受けた人は、「あい・ぽーと」のほか、港区が実施する事業の際の一時保育者として有償で活動が出来ます。

開講日 二〇〇九年一月十六日(金)

毎週金曜日で三月二十七日まで

講義と実習を含む三十コマ

会場 子育てひろば「あい・ぽーと」

【問合せ先】

子育てひろば「あい・ぽーと」池田まで

t e o 三(五七八六) 三二五〇

【全国自治体職員研修】

第三回の研修は開催日が変更になりました。

開講日 二〇〇九年三月十六・十七日

(一泊二日)

会場 子育てひろば「あい・ぽーと」

対象 全国都道府県市区町村の子育て支援に従事している職員の方が対象。

問合せ NPO法人あい・ぽーとステーション・子育て・家族支援者養成講座

事務局・榎本・伊藤まで

TEL 〇三(六六五七) 八五三九

★詳細につきましては、あい・ぽーとステーションホームページをご覧ください。

http://www.aiipor.jp

http://www.aiipor.jp

http://www.aiipor.jp

